

研修名	応急手当（心肺蘇生、AED使用を含む）に関する研修 （消防署等の外部機関との連携）
------------	--

＜効果的な実施時期＞
年度始め、5～7月

1 研修目的

心肺蘇生やAED使用に関する基礎的な知識や技能を身に付けるとともに、事故の未然防止や事故発生時における教職員の危機管理意識や資質の向上を図る。

2 研修の概要

消防署等から外部講師を招き、心肺蘇生やAED使用についての基礎的な知識や技術を身に付けるとともに、事故発生時における校内での安全管理体制について教職員間で共通理解を図る。

3 進め方のポイント

- (1) 導入場面では、「ASUKAモデル」の動画を視聴し、死戦期呼吸におけるAED使用の重要性について理解を深めさせる。
- (2) 「学校等事事故事例検索データベース」から校種ごとの事例を活用する。他校で起こった事例は、自校でも起こり得るという認識のもとに研修を進める。
- (3) 緊急時には、誰もが迅速かつ冷静に対応できるよう、実践的な研修となるよう工夫する。

【発展的研修】

「救命アクションカード」を活用した緊急時の対応訓練を実施したり、中学生や高校生が教員とともに研修を受けたりすることも可能である。また、地域との合同防災訓練等において、地域住民と一緒にすることも考えられる。

4 準備物

- 進行スライド（※各学校の実情に応じて修正可能）
- パソコン（タブレット）、プロジェクター、スクリーン（モニター）
- ポータブルマイク（スピーカー）
- 心肺蘇生法訓練人形
- 外部講師等への事前依頼



5 研修のイメージ

＜導入：学校事事故事例の紹介＞

学校事事故事例(令和3年度)

体育の授業中、持久走をしていた。準備運動のあと、700m走ったところで歩き出し、さらに100m歩いたところで仰向けに倒れた。
(高校1年男子/授業/心臓系突然死)

体育の授業中、バスケットボールをしていたが気分不良を訴えたため休ませていた。授業終了後に嘔吐。その後意識がなくなった。
(高校3年女子/授業/心臓系突然死)

日本スポーツ振興センター(2023)

＜展開：心肺蘇生法の流れ＞



＜展開：実技研修の様子＞



6 研修に参加した先生の声

- 緊急時には躊躇することなく、心肺蘇生やAEDを使用することを改めて学んだ。いざという時に行動できるよう、心肺蘇生の手順について確認したい。
- 事故発生時には、児童生徒等の命を第一に考え、教職員が組織的に対応することが重要であると実感した。危機管理マニュアルの緊急時の対応フローについて、見直しを図りたい。



7 研修の進め方（例）【60分】

時間	内 容	進 め 方	資 料 等
導入 (15分)	1 事故発生の未然防止及び事故発生に備えた事前の取組について確認する。 【一斉】	○「学校事故対応に関する指針」の内容について説明し、教職員間で共通理解を図る。	進行スライド(1-5) 資料1
	2 実際に発生した事故事例を知る。 【一斉】	○実際に発生した事故事例を提示し、どの学校にでも起こり得るという意識を持たせる。 ※校種に応じて事例を変える。	進行スライド(6) 資料2
	3 「ASUKAモデル」を視聴する。 【一斉】	○「ASUKAモデル」の動画を視聴させ、「死戦期呼吸」の説明に注目させる。	進行スライド(7) 資料3
展開 (40分)	4 心肺蘇生やAEDの使用方法について理解する。 【一斉】【グループ】	○自校のAED設置場所や個数について確認させる。 ○外部講師から、心肺蘇生やAEDの使用方法について説明を受け、実技研修を通して体験的に学ばせる。	進行スライド(8-12)
まとめ (5分)	5 研修のまとめを行う。 【一斉】	○研修の感想や学んだことを全体で共有させ、事故発生時における校内での安全管理体制について共通理解を図る。	進行スライド(13)

<活用資料>

○（資料1）

「学校事故対応に関する指針」（文部科学省）



○（資料2）

「学校等事故事例検索データベース」
（独立行政法人日本スポーツ振興センター）



○（資料3）

「あなたにしか救えない大切な命～君の瞳とともに～ASUKAモデル編」
（公益財団法人日本AED財団）



<参考資料（サイト）>

- 「救命アクションカードを活用した緊急時の対応訓練モデル」
（宮城県東部教育事務所）

